

平成30年6月5日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15H03309

研究課題名(和文) ウクライナ動乱の総合的研究

研究課題名(英文) Comprehensive Research of Ukraine's Turmoil

研究代表者

松里 公孝 (Matsuzato, Kimitaka)

東京大学・大学院法学政治学研究科(法学部)・教授

研究者番号：20240640

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 9,300,000円

研究成果の概要(和文)：全ての年度においてキエフのみならず、ドネツク、ハルキウ、ドニプロ、クリミアなどで調査を行い、地域の視点から動乱を研究した。ICCEES, ASEESなど国際学会でウクライナ動乱についてのパネルを組織し、さらに業績をDemokratizatsiya, Russian Politicsなど欧米査読誌・諸媒体に発表した。委託研究でウクライナ・エリートの伝記を収集。研究開始時の課題のうち、ヤヌコヴィチ体制の急激な崩壊理由、内戦の経過、クリミアタタールの動向、新旧非承認国家の比較、残部ウクライナの内政については相当の成果を上げた。やや不十分だったのは、ソ連の民族連邦制に対する批判言説の分析である。

研究成果の概要(英文)：Every year we conducted fieldwork in Donetsk, Kharkiv, Dnipro, Crimea, and other regions and studied Ukraine's turmoil from regional perspective. We organized panels at ICCEES, ASEES, and other international conferences and published research results in Demokratizatsiya, Russian Politics, and other international journals, as well as domestic media. We collected biographical data of Ukraine's regional and national leaders. Among the six research purposes we set at the beginning of this project, we have achieved sufficient research results concerning the reasons for the abrupt collapse of Yanukovich's regime, concrete process of the civil war, the issue of Crimean Tatars, comparison of old and new unrecognized states, and domestic politics in the remaining Ukraine. We worked weaker in regard to critical discourse around the Soviet ethnoterritorial policy.

研究分野：政治学

キーワード：ウクライナ ユーロマイダン革命 クリミア ドンバス ロシア

1. 研究開始当初の背景

2013 年秋から始まったウクライナにおける動乱は世界の関心を引いたが、当初、親EU・NATO勢力と親露勢力の対抗という地政学的な側面のみが注目された。ウクライナの国土の一定部分が危険地帯となったり、政治的な理由から渡航自粛地域となったりしたため、現地調査や世論調査が行いにくくなり、その分だけ研究がイデオロギー化する恐れもあった。本研究は、ウクライナ動乱が持つ多面的な学術的含意に注目し、現地調査・実証主義を掲げた。

2. 研究の目的

クリミアのロシアへの編入および東南ウクライナでの内戦という事態を、次の6つの問いから分析することをめざした。①ウクライナ政治においてはパトロン・クライアント関係がロシアやベラルーシ以上に浸透し堅固であるとみられていた。それがなぜキエフでもドネツクでも民衆反乱に直面して瓦解したのか。②いわゆる親露派は、ソ連時代に確立された民族識別方法を批判している。これは近年の露・中で噴出する民族領域連邦制批判に連動するのか。③ロシアに編入されたクリミアのタタールとイスラームはどう生存戦略を練るのか。④国際社会は、カラバフなど1990年代の非承認国家とは桁違いの人口と面積を持った新たな非承認国家・地域の出現に対応できるだろうか。⑤内戦の実態と諸外国の関与はいかなるものだったのか。⑥工業拠点である東部ウクライナ2州を失った残部ウクライナはいかなる生存戦略を練り、トラウマをどう克服するのか。

3. 研究の方法

毎年度2回の研究会・研究打ち合わせ会議を行った。クリミア、ドネツク、ハルキウ、ドニプロなどの諸州・諸都市で現地調査を行った。藤森と松里は、人民共和国支配地域にも入った。ウクライナのリージョン・中央のエリートにつき伝記調査を委託で行った。毎年度、国際学会でパネルを組織し、国際的な査読誌に研究成果を発表した。

4. 研究成果

6つの研究目的のうち、特に成果が上がったのは、①③④⑤であった。①と⑥について大串、松里が、③について長縄と松里が、④に関して、1990年代に発生した非承認国家との比較、両人民共和国に対する援助が旧非承認国家に対するロシアの政策にどう影響するかについて廣瀬と藤森が、⑤については松里が一連の業績を発表した。⑥に関連する諸問題のうち、残部ウクライナの改革については時間を割くことができなかったが、これが一部の欧米の研究者の人気トピックとなったため、我々がやるまでもないとも言える。②はほぼ手付かずであったが、人民共和国側

の政治言説については、松里がフォローしている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計15件)

①Kimitaka Matsuzato, “The Donbass War and Politics in Cities on the Front: Mariupol and Kramatorsk,” *Nationalities Papers* (査読有、近刊)。

② Kimitaka Matsuzato, “The Donbass War: Outbreak and Deadlock,” *Demokratizatsiya: The Journal of Post-Soviet Democratization* (査読有) 25: 2 (2017), pp. 175—200.

③ Kimitaka Matsuzato, “The Rise and Fall of Ethnoterritorial Federalism: A Comparison of the Soviet Union (Russia), China, and India,” *Europe-Asia Studies* (査読有) 69: 7 (2017), pp. 1047—1069.

④ Atsushi Ogushi, “Weakened Machine Politics and the Consolidation of a Populist Regime? Contextualization of the 2016 Duma Election,” *Russian Politics* (査読有) 2: 3 (2017), pp. 287—306.

⑤ 廣瀬陽子「ウクライナ危機の長い影—ロシアとNATO」『国際問題』(査読無)第667巻(2017)、15—26頁。

⑥ 藤森信吉「マイダン後のウクライナ・エネルギー事情」『ロシアNIS調査月報』(査読無)6月号(2017)38—47頁。

⑦ 藤森信吉「未承認国家問題の再考—沿ドニエストルの発電問題を中心に」『神戸学院経済論集』(査読無)第49巻第1—2号(2017)29—45頁。

⑧ Kimitaka Matsuzato, “Domestic Politics in Crimea, 2009—2015,” *Demokratizatsiya: The Journal of Post-Soviet Democratization* (査読有) 24: 2 (2016), pp. 225—256.

⑨ Yoko Hirose, “The Complexity of Nationalism in Azerbaijan,” *International Journal of Social Science Studies* (査読有) 4: 6 (2016), pp. 136—149.

⑩ Yoko Hirose, “Unrecognized States in the Former USSR and Kosovo: A Focus on Standing Armies,” *Open Journal of Political Science* (査読有) 6: 1 (2016), pp. 67—82.

⑪ 藤森信吉「経済コストから考えるドンバスと沿ドニエストル問題—非承認国家の黄昏」『ロシアNIS調査月報』(査読無)2016年4月号16—26頁。

⑫ 廣瀬陽子「帝国の落とし子、未承認国家」『アステイオン』(査読無)第84号(2016)67—84頁。

⑬ 藤森信吉「天然ガスから見るウクライナ独立25年」『ロシアNIS調査月報』(査読無)第61巻第2号(2016)18—24頁。

⑭ 大串敦「ウクライナの求心的多頭競合体制」『地域研究』(査読有)第16巻第1号(2015)、

46-61 頁。

⑮廣瀬陽子「世界地図は一つではない—暫定国境と未承認国家」Kotoba (査読無) 第 21 号 (2015) 90-93 頁。

〔学会発表〕(計 17 件)

①Yoko Hirose, “Russian Policy on Post-Soviet Unrecognized States and Regions: Similarities and Differences,” Visiting Fellows Research Seminar at Aleksanteri Institute (国際学会)、2017 年 12 月 14 日、ヘルシンキ、フィンランド

②Kimitaka Matsuzato, “The Donbass War and Politics in Cities on the Front: Mariupol and Kramatorsk,” ASEES 49th Annual Convention (国際学会) 2017 年 11 月 9 日～12 日、Chicago, USA

③Atsushi Ogushi, “The Opposition Bloc: a Clientelistic Party with Fewer Administrative Resources,” ASEES 49th Annual Convention (国際学会) 2017 年 11 月 9 日～12 日、Chicago, USA

④Yoko Hirose, “Russian Policy on the Unrecognized States after the Ukrainian Crisis: Focusing on the Transnistrian Problem,” IOS (国際学会) 2017 年 5 月 24 日、Rosenberg Germany

⑤Atsushi Ogushi, “Populism or Machine Politics?” BASEES Annual Conference (国際学会) 2017 年 3 月 31 日—4 月 2 日、Cambridge, UK.

⑥藤森信吉「3度目のマイダンと4度目の大統領与党—ウクライナ東西分裂論を越えて」ウクライナ研究会第36回定例研究報告会、2016 年 12 月 3 日、神戸学院大学 (兵庫県神戸市)

⑦ Kimitaka Matsuzato, “The Donbass War: Outbreak and Deadlock,” ASEES 48th Annual Convention (国際学会) 2016 年 11 月 17 日～20 日、Washington D.C. USA

⑧Atsushi Ogushi, “Weakened Machine Politics and the Consolidation of a Populist Regime? Russian Politics after the Ukrainian Crisis,” ASEES 48th Annual Convention (国際学会) 2016 年 11 月 17 日～20 日、Washington D.C. USA

⑨廣瀬陽子「未承認国家の誕生と存続: 帝国・連邦の遺産」日本国際政治学会2016年度研究大会、2016 年 10 月 14 日～16 日、幕張メッセ (千葉県千葉市)

⑩Yoko Hirose, “International Cooperation in the Arctic Region Following the Ukrainian Crisis,” Conference “The New Forms of Advanced Economic Cooperation in Eurasia and Asia Pacific Region and Its Implications for the Development of Russia's Siberia and Far East” (国際学会) 2016 年 09 月 27 日～28 日、華東師範大学 (上海、中国)

⑪ Kimitaka Matsuzato, “The Donbass War: Outbreak and Deadlock,” The 7th East Asian Conference on Slavic Eurasian Studies (招待講演) (国際学会) 2016 年 09 月 24 日～25 日、華東師範大学 (上海、中国)

⑫Shinkichi Fujimori, “Are Unrecognized States

Sustainable? -The Economic History of People's Republics in Donbass,” The 7th East Asian Conference on Slavic Eurasian Studies (国際学会) 2016 年 09 月 24 日～25 日、華東師範大学 (上海、中国)

⑬Kimitaka Matsuzato, “Under the Anti-Donetsk Trend, a Struggle for Reunification with Russia Was Taking Place, Domestic Politics in Crimea in 2009—2016,” Seminar at National Chengchi University, Taipei (国際学会)、2016 年 3 月 17 日、国立政治大学 (台北市台湾)

⑭Кимитака Мацузато. Неполная государственность, пополняемая трансграничными меньшинствами, на примере Черноморского побережья; ленинградские грузины, приднестровские католики и крымские татары //Проблема устойчивости политических систем современного мира (招待講演) (国際学会) 2016 年 01 月 28 日～30 日、サンクトペテルブルグ市海軍博物館 (サンクトペテルブルグ市ロシア)

⑮Atsushi Ogushi, “Bureaucratic Elites in Russia Revisited: Modernity and Patrimonialism,” IX ICCEES (International Council for Central and East European Studies) World Congress (国際学会) 2015 年 08 月 03 日～08 日、神田外国語大学 (千葉県千葉市)

⑯Yoko Hirose, “Complexity of Nationalism in Azerbaijan,” IX ICCEES World Congress (国際学会) 2015 年 08 月 03 日～08 日、神田外国語大学 (千葉県千葉市)

⑰藤森信吉「非承認国家の黄昏—沿ドニエストルはドンバスの先例なのか」ウクライナ研究会第 33 回定例研究懇談会、2015 年 6 月 6 日、早稲田大学 (東京都新宿区)。

〔図書〕(計 6 件)

①長縄宣博『イスラームのロシア—帝国、宗教、公共圏 1905-1917』(単著) 名古屋大学出版会、2017 年、総頁数 427。

②六鹿茂夫(編著)『黒海地域の国際関係』名古屋大学出版会、2017 年、総頁数 408。廣瀬陽子、215-244 頁、松里公孝、294-317 頁。

③廣瀬陽子『アゼルバイジャン—文明の十字路で躍動する「火の国」』(単著) 群像社、2016 年、総頁数 112。

④杉田敦(編)『グローバル化の中の政治』(共著) 岩波書店、2016 年、総頁数 268。松里公孝、161-190 頁。

⑤塩川伸明、池田嘉郎編『社会人のための現代ロシア講義』(共著) 東京大学出版会、2016 年、総頁数 300。松里公孝、57-76 頁。

⑥山根聡、長縄宣弘(編著)『越境者たちのユーラシア』ミネルヴァ書房、2015 年、総頁数 233。

6. 研究組織

(1)研究代表者

松里 公孝 (MATSUZATO, Kimitaka)

東京大学大学院・法学政治学研究科・教授
研究者番号：20240640

(2)研究分担者

大串 敦 (OGUSHI, Atsushi)
慶應義塾大学・法学部・准教授
研究者番号：20431348

廣瀬 陽子 (HIROSE, Yoko)
慶應義塾大学・総合政策学部・准教授
研究者番号：30348841

長縄 宣博 (NAGANAWA, Norihiro)
北海道大学・スラブ・ユーラシア研究センター・准教授
研究者番号：30451389

藤森 信吉 (FUJIMORI, Shinkichi)
北海道大学・スラブ・ユーラシア研究センター・境界研究共同研究員
研究者番号：10400053